

【家庭数配布】



令和3年10月1日

保護者の皆様

南アルプス市立楡形西小学校
校長 小田切 英史

令和3年度学校関係者評価（前期） 学校自己評価の結果について

秋冷の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。過日行われました運動会におきましては、規模が縮小されたにもかかわらず、保護者の皆様のご支援ご協力のもと、子どもたちは一生懸命練習してきた成果を発揮することができました。皆様のご声援に感謝申し上げます。

さて、今年度の前期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない)

【2】全体的な傾向

職員による自己評価、児童・保護者によるアンケートを通じて、3者ともに、多くの項目で【A】【B】評価の合計が80%を超え、肯定的な評価がされていました。

児童において、1項目「わたしは、早寝早起きをしている。」においては、肯定的評価が71%にとどまり『改善の余地がある』状態です。また、「わたしは、家の人に学校のようすを話している。」「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」の2項目で【C】【D】評価の割合が比較的高かったです。満足できる状態であると判断できますが、改善に向けた取組が必要な項目になります。さらに【D】評価だけに焦点を当ててみますと、半数以上の項目に【D】評価が見られる結果となっています。昨年度前期と比較することは、質問項目が変わっているため妥当ではありませんが、これは、昨年度前期より【D】評価のあった項目は減少してよい傾向だと言えます。

保護者においては、「授業参観や運動会・音楽発表会などの学校行事は、お子さんの様子を知る機会となっていますか。」「ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。」の項目で100%の肯定的評価を得られていることは、特筆すべきことです。しかし、気になる点があります。それは、【E】「わからない」という回答が目につくことです。「お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいますか。」「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」では、それが多数回答されていました。

職員においては、すべて項目で【A】【B】評価の合計が90%以上の割合になっています。その内【A】評価だけで80%以上のものは12項目にのぼり、「十分にできている」と評価できる割合は、昨年度よりも高くなっています。また、否定的評価に目を向けると、3項目においてのみ【C】評価の回答があるだけになっています。

これらを総合的に判断すると、全体的に比較的良好な状況にあるということができると考えられます。

【3】個別の分析

(1) 【確かな学力】にかかわって

学習指導は、学校の根幹をなすものです。教職員による自己評価においては、職員が授業を大切に考え、児童に内容の理解が深まるように努めていることがわかります。県でも進められている“山梨スタンダード”はもとより、学校全体で確認している授業の進め方をしっかりと実践していることが結果に表れている結果となっています。“学習のめあて”を持たせることで見通しを持った学習活動を進め、授業後に振り返ることで学習内容を確認し定着させるという一連の学習の流れが、どの学年でも行われ、自ら学びに向かう姿勢を育てていると考えられます。今後も継続した取組を行い、自ら学ぶ力を育成できるようにしたいと考えています。

児童の回答結果を見てみますと、「わたしは、学校の授業がわかる。」の結果から、日々の学習を理解している様子がわかります。これは「わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を反映しているものだと考えられるでしょう。別の言い方をすれば、「聞くこと」が理解に繋がっていることを表しているとも言えるでしょう。しかし、「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」では、肯定的評価はそれほど高くありません。新型コロナウイルス感染防止のため、これまでできていた集団討議等の学習活動に制限がされたからだと考えられます。自分の考えを持っているにもかかわらず、それを発表できなかつたり、新たな考えと出会うことができなかつたりして、児童の学習への深まりに影響があると思われまます。制約下においても、児童の学習が深められるような工夫をすることが求められています。また、【D】評価する児童がいることから、個にあった丁寧な指導を行っていかねばなりません。指導する職員の数は限られていますが、厳しい中でも有効な手立てを探っていきたいと考えています。



保護者からも、学校での学習の理解にある程度満足できているだろうと考えられる結果となっています。また、家庭学習についても家庭の協力を得て、子供たちが進めていることが推察できます。これは、児童の回答結果にも同じ結果が表れており、全校統一した取り組みが功を奏していると考えられます。若干ですが、保護者から見ても家庭学習に消極的な児童の存在があります。改善に向けて、今後も継続して家庭と連携して協力をいただきながら、学習した内容の定着や発展的な学習につなげられるよう取り組み、学力向上の一助となるようにしたいと考えます。

(2) 【豊かな心】にかかわって（いじめに対する取り組みを含む）



愛校心や自律心を育むために楡形地区小中学校で取り組んでいる「無言清掃」「靴そろえ」は、その肯定率から定着している様子が窺えます。児童も意識して取り組んだり、それが普通になってきたりしているのではないかと推察されます。

挨拶については、肯定率が96%ととても高い結果を得ています。日頃の様子をみると、高学年を中心にして挨拶の声が聞かれ、それが下級生に浸透しているからだと考えられます。児童会活動でも中心的な活動の1つになっており、児童中心の取組の成果が表れている結果です。今年度になって、地域の方々からも「西小児童の挨拶がよく聞かれる。」というお言葉をいただいております。家庭での働きかけもあり、「いつでも」「どこでも」「だれにでも」そして「自分から」ができつつある状況だと思われまます。今後も学校のみならず、地域においても挨拶の輪を広げられるような取組を進めていきたいと考えます。

また、本校児童は、本に親しむことがとても好きです。時間の合間を無駄にせず、本に触れあっている姿をよく目にします。本に親しむことは、知識だけでなく心も豊かにしてくれます。児童に興味を持てるよう、司書を中心に図書委員会の積極的な活動が、読書活動を充実させてくれて、それが結果となっていると考えられます。良き習慣となるよう継続して取り組んでまいりたいと考えております。

生徒指導においては、児童一人一人を理解することが欠かせません。職員は、個に寄り添いながらあるべき姿に導いていけるような指導を心がけているところです。時には、声を荒げて指導をすることもあります。感情に振り回されることなく冷静さを保ちながら指導するように、全職員と確認しながら指導できるように努めてまいります。「西小の児童は、規律がしっかり守られ、挨拶もよくできていて気持ちがいい。」と来校される方よりよく言われます。今後も個に対しての指導や全体に向けての指導が、全職員共通認識の上、同一歩調で行えるようにまいります。

“いじめ”に関わっては、17件が報告されています。“いじめ”の定義からすると、受けた本人がその行為により「嫌な気持ちになった」「いじめられた」と感じると、それは“いじめ”として認知しなければならないことになっています。そこには、それに至った経緯については問われてはいません。そこから考えると、“いじめ”は誰でも被害者にも加害者にもなりうるということがわかります。100名ほどの児童が西小学校に通っており、挙げられた数が多いか少ないかは個々の判断基準によりますが、重要なことは、そのまま放置されて人間関係が悪化していったり、重大な事案に発展したりしまわないかです。挙げられた件については、すべて担任が両者から十分な聞き取りを行って事実確認・状況把握をして適切な指導を行い、悪化することなく解決をされています。今後も児童の様子に注視しながら軽微なものも見逃さず、良好な人間関係づくりに努め、誰もが気持ちよく学校生活を送れるようにしていく所存です。



(3)【健やかな身体】にかかわって

元気に学校生活を送るためには、“早寝”“早起き”“朝ごはん”が必要不可欠です。本校の児童をみますと、朝食は摂っていますが、十分な睡眠がとれていない児童がいることがわかります。高学年になるにつれてその傾向が高くなると考えていましたが、低・中学年においてもその存在は同様で、家庭での生活のあり方が大きく影響していると考えられます。昨今、情報端末の普及で、それに触れている時間は多くなる傾向にあります。それは、始めたらなかなかやめることができないのが特徴です。特に、オンラインゲームは、友達と離れていても一緒にできてしまうことがやめられない要因の一つです。学校生活に支障がないようにするだけでなく、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、家庭への啓発が重要になってきます。特に、「わたしは、早寝早起きをしている。」の結果は、早急に改善が必要だと考えられます。

保護者の回答から「お子さんは、学校に行くとき朝ごはんを食べていますか。」の項目では、とても高い肯定的評価が得られています。児童の評価にもそれが反映されています。例年、食に関しての項目は、肯定的評価が低くなっていましたが、これまでの取組の成果もあるのでしょう。よい結果に繋がっています。職員の回答からも、児童に“食”の大切さを十分働きかけているということからも、児童も“食”について意識していると考えられます。今後も継続した食指導、規則正しい生活習慣づくりの指導を心がけていきたいと思っております。

(4) 【学校・家庭・地域との連携】にかかわって

教育活動を進めるには、家庭や地域との連携は必要不可欠です。このことに関わる質問について、保護者からは90%以上の肯定的評価を得られており、連携をとった教育活動がなされていると判断できます。しかし、「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」という項目では、【E】「分からない」を否定的評価ととらえると、十分満足できるものとはいえないかもしれません。充実した教育活動や児童が安心して学校生活を送れるようにするためにも、学校は、家庭との距離が近くなるような関わり方をしていく必要があると考えられます。

保護者との連携を保っていくには、学校からの情報発信はなくてはなりません。児童の学校での様子を知らせることや教師の思いを伝え共感してもらえることで協力が得られると考えております。そのために、多くの学年で学年だよりとは別に学級だよりを発行して、児童の活動の様子等を知らせてもらっています。保護者の回答結果からも、大変有効な手段であることがわかります。信頼される学校づくりのために、情報発信を欠かさず行っていくことの重要性を十分理解し、より充実した内容を周知していけるように取り組んでまいります。



また、これまで本校は、各学年において地域の方を講師として迎えたり、地域の施設に出向いたりして学習活動を進めてきています。今年度においても、その伝統は踏襲され、児童が地域に誇りを持つことに一役買っています。地域に根差した学校ですから、地域と共に歩んでいけるよう、特色ある西小学校の学習活動として継続できるようにしたいと考えています。毎年のことから前年をただ踏襲するのではなく、反省をもとに改善するべきところは改善を加え、より児童に見合った学習活動を進めるようにしたいと考えます。

(5) 【情報端末】にかかわって

“携帯電話”“スマートフォン”の所有率について、本校においても、高学年になるにつれて高くなってきます。家庭の考えで持たせるか否かは分かれますが、今後、その所有率は高くなり低年齢化してくるものと考えられます。肝心なことは、いかに安全に使用させることだということだと思います。所有している中で、使用上のルールが決められている割合は70%強です。フィルタリング機能等措置をとっている家庭は年々増えていますが、児童任せにしてしまっている家庭が約3割存在していることを理解して、児童への指導や保護者への啓発をしていかなければなりません。学校では、昨年度までの学校評価の受け、これらにかかわる問題の未然防止策として、“携帯電話”“スマートフォン”についての指導を、所有率が高くなり始める中学年を目途に、道徳の授業と絡めて計画的に行っています。GIGAスクール構想の実現が進められている中、全児童が情報端末を安全に安心して扱えるように、情報モラルを守ることを徹底していきたいと考えています。

おわりに、橿形西小学校の全児童がよりよい学校生活が過ごせるよう、今回の学校評価をもとに改善に努めてまいります。これからも、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。